

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 97

学校名・団体名	福山市立内浦小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	内海の海に魚の住み処となる「アマモ」を取り戻す取組

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 はじめに

本校は、広島県福山市内海町の田島の東部に位置しており、周囲を海に囲まれた自然豊かな地域です。島の主要な産業は漁業で、その中でもとりわけ海苔の生産で、「西（広島）の牡蠣，東（福山）の海苔」と言われています。

全校児童は、12名の完全複式の学校です。児童は、「総合的な学習の時間」や「生活科」の授業を通して、身近にある海の自然環境についての学習や島の歴史についての学習を積み重ねてきています。そして、一年間の学習を通して学んだことを、秋の文化祭「うしお祭」で構成劇として発表しています。



2 アマモについて

アマモはイネと同じ植物で、海藻ではなく、種で増える「種子植物」です。3～4月頃に「花枝（かし）」と呼ばれる茎を伸ばし、中にめしべとおしべしかない小さな花をつけます。種は米粒ほどの大きさで黒～茶色です。種のほか、地下茎でも増え、広くたくさん生えた場所をアマモ場と呼びます。アマモという名前の由来は、アマモの地下茎をかむと甘いため、そう呼ばれています。そして、アマモには様々な海の生物が卵を産み、生まれた子供たちは、アマモ場の中で育ちます。アマモは強い波を遮り、また小さい魚が敵から見つかりにくくなるので、色々な魚の子どもが育ちます。また、アマモは植物なので、昼間は酸素をだし、海の中の栄養分を吸収して海を浄化する働きもあるとされています。



3 アマモについての学習について～地域に貢献するために

今年度アマモの学習を本格的にスタートするにあたり、昨年度から、岡山県笠岡市でアマモを増やす活動をされている「神島 寺間・見崎里浜づくり」代表の森中憲治氏



から指導を受けてきました。4月当初より子どもたちと、島のどのあたりにアマモが生えているのかを確認する事前の調査・観察から始まり、種が入った茎である花枝（かし）の採捕（6月）・花枝の養生・種子の採取（8月）・種子の移植用ポットへの植えつけ（10月）・苗の内浦湾への移植（1月）と年間を通しての学習スケジュールを立てました。また、アマモの学習にあたっては、昔の内浦の自然環境（海や山の様子）や人々の暮らしについて造詣の深い峠峠静恵先生や清水紀子先生から話を聞いたり、一緒に調査・観察に同行していただいたりして指導を受けました。

4 アマモの花枝の採捕（6月）

6月12日の大潮の日、高学年でアマモの花枝を採捕しに内浦湾に行きました。森中氏指導の元、児童も教師も全員長靴着用で、粘性の強い干潟を歩いてアマモの花枝を見つけては、手で摘み取っていきました。潮が引いた直後だったので、アマモの周りには小エビやカニがたくさんいました。帰るころには、干潟を歩きまくった児童の長靴には海水がたっぷり入っていました。



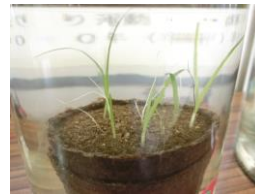
5 アマモの種子の移植用ポットへの植えつけ（10月）

10月31日、それまで冷蔵校の中で保存してきたアマモの種子を、移植用のポットに全員で植えつけました。ポットは、海に移植した時に自然に溶けて土になるような素材を使用しています。昨年度ほとんどの児童が経験していたこともあり、指導の森中氏の説明を受けてすぐに取り掛かっていました。1ポットあたり、15個の種を植えています。植え終わると、海水で満たされた飼育ビンの中にトングを使って静かに沈めていきました。



6 アマモの苗の観察（11月～1月）

種を植えて約一か月もするとアマモの種が発芽してきます。それぞれ自分が植えたアマモがどのように成長していくのかを興味深く観察して、毎日見守っていきます。時には、アマモへのメッセージカードを書いたり、アマモ俳句を詠んだりして愛情を持って大切に育てていきました。



みゆらゆらと
アマモの芽
一年 蓮央

海に植えるよ
元気でね
二年 瑠果

アマモ場は
命を守る
草原だ
三年 千尋

アマモ場は
全ての魚の
宝物
四年 緋菜

ビンの中
のちのちの芽
沢山の生え
いのちの芽
五年 実秀

アマモはね
海の命
ビンの中
五年 ビクトル

稚魚が住む
アマモの家を
建設中
六年 咲季

アマモの芽
待っている
六年 孝俊

7 アマモの海への移植（1月）

1月24日の早朝7時前、6月にアマモの花枝を採捕した内浦湾に大きく育ったアマモの苗を植えに行きました。この日は、朝が早かったので、児童が直接植えることはできませんでした。児童が登校したらみんなで植えた場所に行き、その様子を確認しました。苗を植えた場所には、自然に育っているアマモの苗もあり、改めて自然のすばらしさ・力強さに感動しました。



8 うしお祭全校劇「豊かな海をとりもどせ」（10月）

本校では毎年秋に、地域と合同で「うしお祭」という文化祭を開催しています。4月から「総合的な学習の時間」や「生活科」で地域の環境等について学んだ成果を全校劇で発信したり、音楽発表を行ったりしてきています。今年度の全校劇は、アマモの学習を通して学んだことをベースに海の環境を守ることの大切さについて脚本を作成し、「豊かな海をとりもどせ」というタイトルで劇に取り組みました。昔のように魚がたくさん取れて、人々が豊かな生活を送れるように、ゴミの不法投棄など自分たち自身が今ある課題に気づき、その課題の解決に向けて、みんなで力を合わせて行動を起こしていくことが大切であるというメッセージを広く発信することができました。



9 おわりに～海の豊かさを守るために



今回の取組を通して、「海におけるアマモの重要性を理解し、それを守る学習ができたと言える児童」がアンケートの結果100%となり、児童一人一人の中に、地域貢献・社会貢献の意識を醸成することができたと考えています。また、学んだことを構成劇にして広く他校や地域に発信できたことも、児童の表現力や問題解決能力を高める絶好の機会となりました。

SDGs14『海の豊かさを守ろう』は、決して一年や二年で完結する問題ではありません。来年度以降も継続的に、そして発展的に地域に密着した取り組みにしていきたいと考えています。